



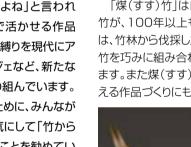


「竹から目線 | で生活を彩る

竹工芸を追求

初田徹さんと竹工芸との出会いは 大学時代、流しそうめんに使う竹を 探して飛び込んだ店で、竹の仕事を 見て良いなと思ったのがきっかけで す。修行を続けながら、世襲の伝統も ネームバリューも持たない自分が竹 工家としてやって行くには、自ら竹工 芸の用途を創っていかなければなら ないと考えました。

初田さんの作品は、お茶道具でも 外でお茶を飲むときに使うような、あ まり流儀に縛られないもの。その分 自由に作ることができると言います。 気を付けるのは「すばらしい作品だけ ど、使うところがないよね」と言われ ないこと。生活の中で活かせる作品 を目標に、伝統工芸の縛りを現代にア レンジした壁のオブジェなど、新たな 領域にも意欲的に取り組んでいます。 竹工芸の未来を開くために、みんなが 少しずつ竹のことを気にして「竹から 目線 | で生活を眺めることを勧めてい る、と言う初田さんです。





www.toruhatsuta.com

代表者 初田 徹 所在地 (非公開)

主な事業 竹を素材とする日用品、茶の道 具、美術作品の制作

ホームページからお問い合わせ 連絡先 をお願い致します。



デザインから仕上げまで、一貫 して手がけます



古材の煤(すす)竹を用いて削りつづける、 菓子切り「ささのは」

ここがすごい!! 🖒

歳月が育てた材料を 現代に生かす

「煤(すす)竹|は自然には生えていません。かやぶき屋根の屋根組に使われた 竹が、100年以上も囲炉裏の煙に燻されて褐色に変化したものです。初田さん は、竹林から伐採した新しい竹や、こうした長年の人間の暮らしから生まれた古い 竹を巧みに組み合わせ、ときには1点の籠に5種類もの竹を用いて作品に仕上げ ます。また煤(すす)竹の菓子切りなど、現代の生活にマッチし若い人も気軽に使 える作品づくりにも力を入れています。



して削る茶杓



良質の煤(すす) 竹を吟味 5種の竹材を組み合わせた「小筺 イメージにあった材料を選択し、 (ko-bako) |、茶籠を意識している が用途は限定しない。(第51回東 み上げる 日本伝統工芸展入選作品)



持ち味を最大限に発揮するよう組

VOICE → 自分の方向を決めるのは自分自身

人の意見を聞くことがまず大切。ただし、人の立 場によって意見も色々あるので、最終的には自分 の意見が求められます。常識はあるようでないも の。傲慢になってはいけないけれど、自分の選んだ 道を信念を持って進んでいけば、いずれ賛同者が 増えてきます。



初田徹さん